

Before  
After

# 道しるべ

道徳通信

上尾市立太平中学校  
道徳通信 第10号  
令和8年3月13日(金)  
発行者 校長 宮田 純生

## 天使の声

校長 宮田 純生

埼玉県では県独自の道徳の資料として「彩の国道徳」を発行しています。その中で、平成21年に発行された「心の絆」という資料には、「天使の声」という教材が入っています。この教材は、宮城県南三陸町で当時、町の職員として勤務していた遠藤未希さんのという方の物語です。

未希さんは危機管理課という場所に勤務し、町の防災対策庁舎で防災無線の担当をしていました。

東日本大震災が発生し、未希さんは地震の発生とその後押し寄せる津波の注意喚起を庁舎から行いました。

地震が発生し、自分もすぐに避難すれば助かったと思われそうですが、未希さんは町民のために同僚と一緒にアナウンスを続けたそうです。

「大津波警報が発令されました。町民の皆さんは早く、早く高台に避難してください。」東北放送が東日本大震災の記録として販売した「東日本大震災の記録～3.11宮城～」というDVDには未希さんの必死で訴えるアナウンスの声が残されています。

津波が押し寄せ、未希さんは庁舎の屋上に避難しますが、津波は庁舎の屋上まで達して未希さんは津波に流され亡くなってしまいます。

東日本大震災の後、私もこの防災対策庁舎を訪れましたが、津波の悲惨さを感じることができました。

今年は、東日本大震災が発生して15年という節目の年になりますが、この震災により犠牲となられた方は死者、行方不明者を合わせ、22,332名となっております。

また、いまだに避難生活を送られている方は昨年8月時点で26,906人いらっしゃいます。

東日本大震災は、我々の日頃の備えや防災に対する意識が変わった出来事でもあります。その中で犠牲になられた方々のことを忘れてはいけなと感じました。





## 青学年から受け継ぐ「温かさ」のバトン

にしいろ学級職員

私は、太平中に来て3年になります。卒業していく「青学年」の熱狂的なファンです。理由はただ一つ、この学年が持つ「温かさ」にあります。

行事で共にした自然学校や修学旅行。にしいろ学級の生徒に送られる優しい視線、さりげない声かけ、気持ちの良いあいさつ、体育の持久走で仲間にかける声援、そして体育祭と合唱祭での団結……。皆さんの行動一つ一つが、心を和ませ、温めてくれる日だまりのようでした。

私が太平中の教員として、青学年のみなさんの成長を感じる中で学んだこと。それは「**温かな環境が温かな心を育てる**」ということです。少年から青年へと変わる貴重な三年間、皆さん一人ひとりの存在こそが、仲間を支える最高の環境でした。

**「温かさは連鎖する。しかし、その逆もまた真実である。」**

社会に出れば、厳しい風も吹くでしょう。けれど、この学年で温かさを作り上げてきた皆さんなら大丈夫。太平中の目標である「**社会に貢献できる人材**」とは、自分の周りに**温かな空気を広げられる人のことだと私は信じています**。

1、2年生の皆さん。先輩が残したこの「太平中の温かさ」を、次は君たちが繋いでいってください。日常の中の仲間へのふとした一言を大切にしてください。青学年の皆さん、にしいろ学級の仲間を支えてくれてありがとう。新しい場所でも、その温かさを広げる人になってください。応援しています！

## 「一生勉強、一生青春」

道徳主任

3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。本日、皆さんは義務教育という一つの大きな階段を登りきりました。しかし、これで「勉強」が終わるわけではありません。むしろ、ここからが本当の意味での「学び」の始まりです。

書家の相田みつをさんは、こんな言葉を残しています。「**一生勉強、一生青春**」

「勉強」と聞くと、机に向かって教科書の内容を覚えることをイメージするかもしれません。しかし、道徳の時間に私たちが考えてきたことはどうだったでしょうか。正解のない問いに悩み、他者の葛藤する気持ちに共感し、自分の生き方を見つめ直す。これらすべてが、豊かな人生を送るための「勉強」です。

新しい環境では、思い通りにいかないことや、自分の未熟さを痛感することもきっとあるでしょう。そんなときこそ、この言葉を思い出してほしいと思います。知らないことを知ろうとする、できないことを克服しようとする。そんな探求心や向上心をもち続けている限り、人は何歳になっても「青春」の中にいられるのではないのでしょうか。

皆さんの可能性は無限大です。自分自身の限界を簡単に決めず、「やってみたい」という素直な気持ちを大切にしてほしいです。

次の登校日からは、1、2年生が太平中学校の「青春」を形作る番です。伝統とは、ただ守るものだけではなく、新しく学び、更新していくものだとも思います。3年生が残したバトンを手にも、皆さんの自分らしさを大切に、前に進んでいきましょう。

「学ぶ」ことをやめたとき、人の成長は止まってしまいます。逆に言えば、学び続ける限り、皆さんの心はどこまでも成長します。

太平中学校で育った皆さんの未来が、どこまでも大きく広がっていくことを、心から願っています。

